特定非営利活動法人

アーシャ

ASHA

アジアの農民と歩む会

年次報告　２０１９

より持続可能に

より女性の参加を

より子どもたちに教育と希望を

2019年度もご支援をいただきまして誠にありがとうございます。このたびの新型コロナウイルス感染症拡大により影響を受けられた皆様に、謹んでお見舞い申し上げます。当会は、北インド・プラヤグラージを拠点としてサム・ヒギンボトム農工科学大学マキノスクールと協働で、持続可能な農業の普及、貧困家庭の子供・女性の教育支援、農村青年・女性リーダーの育成、女性の地位向上、栄養改善・母子保健改善、収入向上に関する事業を展開しています。何卒末長くご支援を賜りますようお願い申し上げます。

特定非営利活動法人 アーシャ＝アジアの農民と歩む会　代表理事　三浦　孝子

２０１９年度（第１６期）事業報告 （2019年4月1日から2020年3月31日まで）

プロジェクト統括責任者　三浦　照男

はじめに

今期より、２つの助成団体、味の素ファンデーションAINプログラム「食と栄養支援事業」とアジア生協協力基金から助成金が得られたことで、モリンガ関連事業と手工芸品・縫製事業を強化することができました。また、外務省日本ＮＧＯ連携無償資金協力事業に大豆栽培とその加工を通した農村女性の所得創出事業が採択され、3月から開始しました。大豆の生産とその加工食品の製造、販売まで一貫作業が可能になり、農村住民の収入拡大、農村女性のリーダー育成に大きな弾みが与えられました。

有機農業組合事業、手工芸品・縫製事業の「自立のための支援活動」に力点を置いたことで活動収益が上がり、自ら給与を賄えるようになりました。持続可能な活動を目指す上で重要な節目となりました。

現地訪問者は多くあり、マキノスクールの活動を学ぶとともに、自らの経験や知識を本会スタッフやアーシャ学校の生徒に紹介してくれました。各地域間、日印間のネットワーク強化を図っていきます。

新型コロナウイルス感染症の拡大により、ウッタルプラデシュ州では3月22日から封鎖となり、当会もマキノスクールもほとんどの活動を休止しました。早期に活動が再開できるように祈るばかりです。

今期も大過なく事業が成されたことに感謝します。国内外の活動を支援してくださった会員、協力者や寄付者、理事、監事の方々に心より御礼を申し上げます。

Ⅰ．特定非営利活動に係る事業

１．農村開発・農業開発支援事業
持続可能な農業・農村開発・収入向上事業

1-1 貧困農民のための収入向上活動事業

アラハバード有機農業組合（AOAC）をカウンターパートとし、有機野菜や日本米の栽培、加工食品（味噌、醤油、漬物、乾燥キノコ、乾燥モリンガなど）の質の向上と販路拡大のための協力・支援を行いました。日系の食品関連業者との大口取引の話が出るなど、AOACビジネスが拡大する様相はありますが、同時に取引に必要な法的知識を持つスタッフの必要性を痛感しました。また、食品加工の機械化が望まれていますが、スタッフから具体案は示されませんでした。

栽培農家がプラヤグラージの市街地で農産物を直接販売できるようになりましたが、参加する農家は昨年の８名が今年は４名。AOACの支援が少ない、農家が直接販売に抵抗があることが半減した理由と考えられます。一方、若い農家が継続していますので、彼らがリーダーとなり、直接販売を継続するような支援を考えていきます。

昨年5月、農村保健ボランティアを中心に設立された現地NGO アーシャ ビカス セワ サミティ（AVSS）の保健活動部門の自立を支援するため、モリンガの加工・販売、Green Café運営の支援を行いました。日本向けモリンガ、ヒマラヤ岩塩の売上は減少しましたが、Green Caféの売上は倍増し、自立運営に向かっています。

同縫製部門アーシャ ビカス シャクティ（AVS）が製作する手工芸品の新商品開発と販売の支援を行いました。インド国内の売上は18%増加しましたが、日本向けの売上は微増に止まりました。

1-2 アーシャ農村学校及び持続可能な農村開発研修センターの効果的な活用

9月、アーシャ学校マエダ校では、インターンシップ研修に参加した大学生10名と同校の教師・生徒との交流会を行い、遊びや文化について話し合いました。その後、大学生は農村調査のため、同校2階のマエダ農村センターに宿泊しました。

裁縫教室基礎コース（1月～3月）を開催しました。マエダ農村センター、ハルディー農村センターは施設利用率は低い状況です。カンジャサ農村センターとアーシャ学校の借地契約が終了するため、来期は返却することにしました。

２．人材育成支援事業

2-1 持続可能な農業・農村開発コース(SCSAD)運営支援および研修所の環境向上

インド・メガラヤ州より男子１名、女子１名、ミャンマー人男子２名、合計４名が卒業し、それぞれの地域に戻り、活動を続けています。

例年通り、農作物・野菜栽培、食品加工の座学と実習、視察見学、研修旅行、農村調査など多岐に渡る学びを提供しましたが、学生の期待に応えられないこともあり、検討しなくてはなりません。

- 学生が減り授業料が減収となり、講師陣を強化できない。
- 社会的地位が低い農業の実学を学びたいという農村青年が少なくなる一方で、農村調査、開発理論を学びたいという要望に対応できない。
- 魅力ある農業がまだ十分に示せていない。
- NGOの農業関連プロジェクトは減少気味にある。
- 活動がスタッフの数、資格に比べて多すぎる。

2-2 僻地農村学校の自立運営に向けた総合的教育支援事業

(1) アーシャ学校(1村、1校・児童100名)の運営と教育改善のための支援

政府の学校認可に対する規制が厳しくなり、実質マエダ校1校のみの支援となりました。

(2) アーシャ学校の生徒に対する奨学金寄与

アーシャ学校の授業料は他の私立学校に比べ低く設定されています。生徒70名に対し、１人当たり25ルピー（40円）を奨学金として供与しましたが、奨学金の殆どは教師の給与に充てられています。

2-3 裁縫学校の運営支援、裁縫によるフェアトレード製品の開発支援

アジア生協協力基金の助成により「北インド農村女性の自立支援のための手工芸品マーケティングシステムの確立と生産・技術能力向上事業」を開始しました。

手工芸品・縫製のプロフェッショナル研修コースを7月～8月に開催しました。縫製教室基礎コース（2月～4月）修了者の中で試験に合格した４名とAVSメンバー４名が参加しました。縫製技術・デザイン専門家の中村真奈氏を派遣し、縫製技術の改善や新商品開発を指導しました。これにより、16品目57種類の新商品が開発されました。また、参加者全員が修了試験に合格しました。

デリー研修旅行を実施しました。AVSメンバー5名と本会スタッフが参加し、手工芸品店やフリーマーケット、NGOの縫製教室を視察し、交流したことにより、仕事へのモチベーションを上げることができました。

主要３都市において営業活動の支援を行いました。デリーに４回、ムンバイとバンガロールに１回、本会スタッフが訪問し、ヨガバッグ、刺繍巾着、ワイン用バッグや弁当用エコバッグの提案・製作の依頼を受けることができました。

裁縫教室基礎コースを1月～3月にマエダ農村センターにおいて開催しました。平均42名の農村女性が参加し、講師はAVSメンバーが担当しました。

2-4 農村保健衛生改善支援事業

味の素ファンデーションの助成により「北インドと日本をつなぐ食を通した栄養改善プロジェクト」を開始しました。

農村の小規模生産者グループに属する農村女性が共同で北インド原産のモリンガを栽培し、収穫したモリンガはAVSSに出荷します。また、AVSSで働く農村女性が加工したモリンガ粉末は、インドと日本で販売します。これにより、農村女性はモリンガ、間作で植えた緑黄色野菜の摂取を促進するとともに、モリンガを出荷して得た収入で栄養価の高い食品を購入することにより、子どもの栄養不良を低減することができます。

先行事業で育成した農村女性の保健ボランティアの中から、熱心な人をシニア保健ボランティア（SVHV）として採用し、本会スタッフと協働してモリンガ栽培に適した農地を探しました。貧しい農村の女性は土地を持っていない、家族の農地はあっても家族の同意が得られないことが多い中で、２ヵ村、５グループでモリンガ栽培が開始されて、3月下旬、初収穫のモリンガの葉を加工することができました。

栄養専門家の奥村昌子氏、保健専門家の三浦孝子氏を派遣し、SVHVの研修の中でモリンガの栄養価、栄養不良の改善、幼児の身体測定を指導しました。また、モリンガ粉末加工プロセスの効率と品質の改善を指導したことで、日本の細菌検査において合格ラインを連続して超える品質を達成することができました。

2-5 農村女性所得創出・地位向上支援事業

外務省日本NGO連携無償資金協力により「大豆の栽培・加工を通じた農村女性の所得創出事業」を開始しました。

農村女性が大豆を栽培し、大豆加工食品を製造・販売する事業を立ち上げて農村女性の収入基盤を構築します。これにより、農村住民の栄養改善、農村女性の社会的地位の向上の支援を行います。

3月の事業開始に先立ち、1月より事業地に適した大豆の品種やその栽培法を調べるために、マキノスクールの農場で大豆の栽培を始めました。

農村女性の保健ボランティアの中から、本活動を推進する農村普及ボランティア（VEV)を選抜し、育成プログラムを開始しました。折よくマキノスクールに来訪されたインド在住の日本人料理人の秦野博司氏に豆腐料理の指導をお願いしました。VEVは、豆腐の天ぷらや豆腐カツレツの調理法を学ぶことができました。

３．事業を推進するための調査研究及び、啓発・広報事業

3-1 ワークキャンプ・スタディツアー、訪問者受入

(1) インターンシップ研修プログラム（9月1日～14日）アーシャ主催で現地集合

日本人大学生を中心に公募し、マキノスクールにおいて農村・農業開発、食品加工・販売などの研修プログラムを開催して10名が参加しました。

今期は2回目ですが、最終評価会において、異文化の中で現地人との交流や共同作業を通じて農村開発、貧困、女性、栄養などの課題を学ぶことができた、日本との共通点や相違点の理解を深めることができたなど、多くの学びを得たと感謝の意を表されました。来年度も継続したいと思います。

(2) スタディツアー（アーシャ・公益社団法人全国愛農会・インド三浦後援会・マキノスクール共催）

スタディツアーを3月1日～10日の日程で公募し、大学生５名と一般者１名が応募されました。渡航直前に新型コロナウイルス感染が世界的に拡大し、インドは外国人の入国規制を強化しました。また、帰国便の確保も懸念される事態となり、急遽中止しました。

3-2 会報の発行

本会の活動、マキノスクールのプロジェクト活動を理解していただくため、年３回（4月、8月、12月）機関紙『アーシャ』を発行しました。

3-3 ホームページ等での広報

本会の活動を広く一般の方々に知っていただくため、ホームページの更新を行いました。

3-4 日本国内における学生・市民のためのセミナー及び講演の企画、主催、参加

・プロジェクト報告会を行いました。
　荘内教会・荘内教会保育園、鶴川教会、日本キリスト教団婦人会連合会、酪農学園大学、とわの森三愛高校、北星学園大学、田園調布教会

・NGOスタディツアー合同説明会（青山学院大学）に参加しました。

・アーシャ公開セミナー「持続可能な世界を目指して」を通常総会と併催しました。

・その他の催しを行いました。
　マロニエ医療福祉専門学校、モリンガ入りインドカレークッキングとお話し会、栃木県助産師会県北支部育児グループ

3-5 次期事業形成調査

外務省日本NGO連携無償資金協力事業に大豆栽培と加工の事業を申請し、採択・開始されました。

Ⅱ．その他の事業

１．バザー・チャリティ・販売事業

インドでは、デリーの日本人祭りやフリーマーケット、バザーなどで販売支援を行うとともに、本会活動の認知度向上に努めました。

日本では、バザー、セミナー、フェアトレード関連行事などに出店し、モリンガパウダーや手工芸品の販売を行うとともに、本会活動の認知度向上に努めました。定期的な出店によりリピーターも増え、知名度を上げることができました。しかし、夏以降、台風の影響でイベントが中止され、客足も伸びず、売上は減少しました。

２．食品加工事業

9月より日本で食品加工事業を開始しました。インドから輸入したモリンガ粉末を小分けし、シーリングしてラベルを貼付する加工作業を開始しました。また、モリンガ粉末とヒマラヤ岩塩をブレンドしたモリンガ塩の加工を行いました。

３．演奏会、展示会、図書出版等の文化事業

絵画展・写真展をヒカリノカフェ蜂須小珈琲店（栃木県大田原市）で行いました。

２０１９年度（第１６期）活動計算書 （2019年4月1日から2020年3月31日まで）

経常利益	受取会費		450,000
	受取寄付金		1,121,473
	受取助成金等		5,645,618
	事業収益		955,784
	その他収益		527,952
		経常収益計	8,700,827
経常費用	事業費	人件費	667,924
		その他経費	7,098,063
		事業費計	7,765,987
	管理費	人件費	1,663,344
		その他経費	2,258,576
		管理費計	3,921,920
		経常費用計	11,687,907
経常外収益			0
経常外費用			0
税引前当期正味財産増減額			△ 2,987,080
法人税、住民税及び事業税			83,400
当期正味財産増減額			△ 3,070,480
前期繰越正味財産額			10,340,510
次期繰越正味財産額			7,270,030

２０１９年度（第１６期）貸借対照表 （2020年3月31日現在）

資産の部	流動資産	現金預金	17,659,725
		棚卸資産	460,139
		その他流動資産	217,700
	固定資産	有形固定資産	5,000,001
		資産合計	23,337,565
負債の部	流動負債	短期借入金	691,780
		未払金	1,322,807
		未払消費税等	98,400
		前受補助金等	13,952,948
		預り金	1,600
		負債合計	16,067,535
正味財産の部	前期繰越正味財産		10,340,510
	当期正味財産増減額		△ 3,070,480
	正味財産合計		7,270,030
	負債及び正味財産合計		23,337,565

アーシャを応援する

ボランティア活動に参加する

国内では各種イベントなどをお手伝いいただける方を募集しています。また、現地でもインターンを募集しています。是非、お問い合わせください。

フェアトレード商品を購入する

フェアトレード商品をご購入いただくと、売上が商品を生産した農村女性に還元されます。

モリンガパウダー・モリンガ塩・ヒマラヤ岩塩

モリンガは90種類以上の豊富な栄養素を含む食と健康を支えるスーパーフード。ヒマラヤ岩塩とブレンドしたモリンガ塩もあります。

ハンディクラフト商品

アーシャの会員になる・寄付をする

アーシャの活動は、会員の年会費、支援者の寄付金、政府系や民間の協力基金の助成金などを有効に活用して運営しております。助成金は、期間・使途が限られますので、持続的な活動は、皆様の末長いご支援により成り立っております。

会員へのご入会をお願いいたします。

＜年会費＞

○正会員	1口	￥5,000 /年
○賛助会員	1口	￥3,000 /年
○終身正会員	1口	￥50,000
○終身賛助会員	1口	￥30,000
○団体正会員	1口	￥20,000 /年
○団体賛助会員	1口	￥10,000 /年
○終身団体正会員	1口	￥100,000
○終身団体賛助会員	1口	￥50,000

年会費・寄付の振込先

＜ゆうちょ銀行 電信振替＞
口座番号：00160-0-315147
口座名義：アーシャアジアノノウミントアユムカイ

＜ゆうちょ銀行 通常払込＞
記号：10700　　番号：20520001
口座名義：アーシャアジアノノウミントアユムカイ

＜他の金融機関から送金＞
金融機関名：ゆうちょ銀行
　　○一九（ゼロイチキュウ）支店
預金科目：当座　　口座番号：0315147
口座名義：アーシャアジアノノウミントアユムカイ

特定非営利活動法人
アーシャ
ASHA
アジアの農民と歩む会

特定非営利活動法人
アーシャ＝アジアの農民と歩む会
〒329-2703
栃木県那須塩原市槻沢８３－１７
TEL： 0287-47-7840
FAX： 0287-47-7841
Email： info.jp@ashaasia.org

Accountability Self-Check 2012

最新情報は以下をご欄ください。

アーシャ・ホームページ：
http://ashaasia.org/

アーシャ・Facebook：
http://www.facebook.com/asha.asia.page

サム・ヒギンボトム農工科学大学
継続教育学部（MSCNE）ホームページ（英語）
http://mscne.org/